

令和4年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座」開催要項

全国の各種図書館等で児童サービスに従事する図書館員等、児童書及び児童文学に関する知識を必要としている方の、幅広い知識の修得を目的として、児童文学連続講座を開催します。

1 総合テーマ

「子どもに本を手渡すー児童文学基礎講座」

2 形式

Web 会議サービス Cisco Webex Events により、講義をオンライン同時配信します。また、後日講義を録画した映像を配信します。開催前日までに、レジュメを当館ホームページに掲載します。利用する PC、インターネット環境は、受講者が各自でご用意ください。また、Webex Events の実行環境についても各自でご確認ください。サービス利用に当たってのサポート等の個別対応は致しかねます。なお、動画視聴による PC 環境等の不具合については責任を負いかねます。ご了承ください。

3 開催日程

令和4年11月28日（月）及び29日（火）

※録画映像の配信日程や申込みについては、後日、当館ホームページでご案内いたします。

4 受講費

無料

5 内容及び講師

別紙のとおり。

なお、講座内容は都合により変更になることがあります。

6 申込方法

1 講義単位での申込みとなります。受講を希望する講義を選択し、以下の登録フォームからお申込みください。

[登録フォーム（Webex Events ヘルプ）](#)

7 申込受付期間

令和4年9月28日（水）から令和4年11月7日（月）まで

8 修了証書

修了証書の交付は行いません。

問い合わせ先
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49
国立国会図書館国際子ども図書館企画協力課協力係
TEL：03-3827-2053（開館日の9:30から17:00まで）
電子メール：kenshu★kodomo.go.jp（★を半角の@にし
てください）

総合テーマ「子どもに本を手渡す—児童文学基礎講座」

コロナ禍や世界各地の紛争によって、子どもたちも貧困や格差、差別といった大きな問題にさらされています。多くの情報がひっきりなしに流れてきますから、メディアをとおして、そのような問題に触れることも多いでしょう。だからこそ、私たちは本を手渡したいと思います。本は、紙の手触りを感じながらページをめくり、自分のペースで読むものです。じっくり考えながら新しい世界に触れることも、ゆったり楽しんで心を開放することもできるからです。

今年度は「子どもに本を手渡す—児童文学基礎講座」と題して、子どもに本を手渡す大人が知っておきたい、子どもの本の現状を幅広くご紹介します。まず、社会状況のなかで子どもの本がどうなっているのか、概観するための総論をおきました。それから各論として、日本の児童文学、英米の児童文学、絵本の現在について、それぞれの歴史もふまえてお話しします。このほか、国際子ども図書館のサービスについても併せてご紹介します。この講座をとおして、いま、どのような視点で本を選び、どのようにして子どもたちに手渡せばよいのか、みなさんと考えていきたいと思います。

監修 藤本 恵（武蔵野大学文学部教授、国立国会図書館客員調査員）

令和4年11月28日（月）

10:00～11:30

講義1 「子どもの本の現在—何をいかに選ぶか」

土居 安子（大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員）

……現在、私たちの社会は、新型コロナウイルスなどの病気、地球環境、戦争など、さまざまな問題を抱えています。また、メディアの状況もコミュニケーションのありようも大きく変化しています。このような中でいかなる子どもの本が出版され、私たちはどんな視点をもって子どもの本を選ぶべきなのでしょう。具体例を示しながら考えたいと思います。

13:00～14:30

講義2 「日本児童文学の現在—サステナブルに生きさせられる子ども」

藤本 恵（武蔵野大学教授、国立国会図書館客員調査員）

……日本の児童文学が、社会の状況やそのなかで生きる子どもを描けるようになったのは1960年代からだ、と言われてきました。それから半世紀を経て、児童文学に描かれつつあるのはどのような問題なのか、そのなかで子どもたちがどのようにふるまっているのか捉えながら、いまを生きる子どもたちとのつなぎ方を考えてみたいと思います。

15:00～15:40

講義3 「国際子ども図書館のサービス紹介」

国立国会図書館国際子ども図書館職員

……国際子ども図書館は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」の理念を実現するという使命のもと、さまざまな取り組みを行っています。子どもたちや、子どもたちに本を手渡す役目を担う方たちに向けた各種サービスをご紹介します。

別紙

令和4年11月29日（火）

10:00～11:30

講義4 「海外児童文学の現在—「人種・民族」「階級・階層」「ジェンダー」から考える子どもの本」

水間 千恵（白百合女子大学教授）

……国際社会が、一致団結して目指すべきものとして「持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）」を掲げて以来、「多様性」という概念にあらためて注目が集まっています。本講義では、現代児童文学における「多様性」を、3つの重要キーワードに照らして考えていきたいと思っています。

13:00～14:30

講義5 「絵本の現在—普遍性と現代性を考える」

今田 由香（日本女子大学准教授）

……ロングセラーとなった絵本の多くは、普遍的な魅力を備えています。しかし、現代の読者にとっては古い内容や表現が含まれていることもあります。新しい絵本は、現代の意識や最新の知見を反映して作られますが、未来の読者も必要とする作品になっているでしょうか。普遍性と現代性という観点から、絵本と出版や読書について考えます。

別紙

講師略歴（五十音順）

今田 由香（いまだ ゆか）

日本女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修了、博士（学術）。日本女子大学、浦和大学、京都女子大学を経て、2022年4月から日本女子大学家政学部児童学科准教授。専門は絵本学。作品や作家、読者と社会等、複数の視点から、文献研究とフィールドワークを通じて、物語絵本の表現と読書の可能性について研究している。

著書『トミ・ウンゲラーと絵本：その人生と作品』（玉川大学出版部、2018）

『絵本ものがたり FIND』（朝倉書店、共編著、2016）等

論文「"The Three Robbers" の表現様式」（『絵本学会紀要 絵本学』15, 2013）等

土居 安子（どい やすこ）

（一財）大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員。研究分野は日本児童文学史、児童出版文化史。財団の事業として、教員・司書・ボランティア等への読書活動に関わる研修や、国内外の児童文学作家の講演会、シンポジウムの企画等を行っている。2018年・20年国際アンデルセン賞選考委員。

著書『ひとりてよめたよ! 幼年文学おすすめブックガイド200』（評論社、共編著、2019）等

論文「第二次『幼年世界』（博文館）の特徴－『良友』との比較を通して－」（『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』35, 2022）

「大阪国際児童文学館における物語体験の可能性(12)お話作りの実践を通して」（『国際児童文学館紀要』20, 2007）等

藤本 恵（ふじもと めぐみ）

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科日本文学専攻修士課程修了、同大学院人間文化研究科比較文化学専攻（博士課程）単位取得退学。都留文科大学を経て、2019年4月から武蔵野大学文学部日本文学文化学科教授。専門は日本児童文学、童謡など。2022年4月から国立国会図書館客員調査員。

著書『掘りだしものカタログ3 子どもの部屋×小説』（明治書院、2009）等

論文「雑誌『少女の友』詩欄の推移：口語詩・童謡・小曲・少女詩」（『日本近代文学』89, 2013）

「現代詩歌と子どもの言葉：雑誌『赤い鳥』と田中千鳥から百年」（『日本現代詩歌研究』13, 2018）等

水間 千恵（みずま ちえ）

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程修了。博士（文学）。（財）大阪国際児童文学館、川口短期大学を経て、2021年4月から白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授。主な研究テーマは、子どもの本とイデオロギー、文学研究としての絵本論、児童文学におけるアダプテーションなど。令和2年度児童文学連続講座「21世紀の英米ヤングアダルト文学—物語がもつ力と危険性」講師。

著書『女になった海賊と大人にならない子どもたち—ロビンソン変形譚のゆくえ』（玉川大学出版部、2009.）

『「時」から読み解く世界児童文学事典』（共編著、原書房、2017）等

論文「テレビアニメのロビンソンたち—『冒険ガボテン島』と『無人惑星サヴァイヴ』」（『川口短期大学紀要』32, 2018）

「絵本で考える性の多様性」（『川口短期大学紀要』33, 2019）等